

宇宙開発戦略本部会合 第4回会合(議事要旨)

1. 日 時 平成22年5月25日(火) 8:00~8:10

2. 場 所 院内大臣室

3. 議 事 (司会: 前原誠司 宇宙開発担当大臣)

- 宇宙開発戦略本部長である鳩山由紀夫総理大臣から挨拶が行われた。
- 泉内閣府大臣政務官より、資料1「宇宙分野における重点施策について(案)(概要)」、及び資料2「宇宙分野における重点施策について(案)」について説明が行われた。
- 関係閣僚からの主な発言は以下のとおり。
 - 川端文部科学大臣より、先週のH-IIAロケット打上げ成功、金星探査機「あかつき」の科学的成果への期待などについて発言があった。また、宇宙開発戦略本部の機能が発揮されることが重要であり、今回策定される重点施策については、研究開発を中心に各省と連携しつつ取り組むとの発言があった。加えて、本日の決定案は、成長という観点から取りまとめたものであるが、それ以外の国際宇宙ステーションの在り方、将来の月探査の在り方等の検討も進んでおり、それらの議論を踏まえて宇宙基本計画の見直しを含めた議論をこの場で行うべきとの発言があった。
 - 直嶋経済産業大臣より、小型衛星、パッケージ輸出等について取り組んでいきたいとの発言があった。宇宙ステーション等についても、今後の宇宙開発を考えると重要なものであり、それらも含めて、学術研究もしっかりやっていくことが大事と考えているとの発言があった。
 - 原口総務大臣より、宇宙開発は、特に、情報通信、データ通信、プラットフォームという形で極めて重要であること、また、「テラ」、さらに上の単位の情報が即必要となってくるとの認識が示され、10年、20年、30年後から今を見た

視点で議論を進めるべきとの発言があった。中国も自らのロケットで有人飛行を達成している中で、日本としては技術的には遜色ないものと理解しているが、有人飛行についてはどのように考えているのかとの発言があった。

- 小沢環境大臣より、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」が世界から大変注目され、様々なデータを集め、提供し、感謝されているとの発言があった。加えて、アイスランドの火山噴火の検証データを英国政府に提供した例を挙げ、日本として、戦略的に宇宙を活用していくことが重要であるとの発言があった。
 - 前原宇宙開発担当大臣より、有人探査については、視野にいれつつも、技術的な面や、多額の開発費用について検討していく必要があるとの発言があった。そのような認識の下、2020年までにロボットによる月探査を行うなど、ステップを踏みながら、取組みを進め、その延長線上に有人というものを考えているとの発言があった。
- 最後に、「宇宙分野における重点施策について(案)」を本部として決定した。その際、前原宇宙開発担当大臣より、今後、施策の実施状況を踏まえつつ、宇宙政策における重要事項についての検討を進めていくので、節目、節目における本部の開催を含めた協力をお願いするとの発言があった。

以上